

OB会報

湘南サッカー部 OB会報 第29号

就任ご挨拶

OB会会長 昭37年卒 牧村 優

昨年井上さんの後任として、サッカー部OB会会長を仰せつかりました37回卒の牧村でございます。現役の頃、OB会会長といえば長老の方がなられるものと認識をしていましただけに、何故私が？の思いが致しましたが、考えてみるに若い方々から見れば私自身間違いなくその領域に足を踏み入れていることが自覚させられた次第です。創部以来90年

(1921年～2011年) になりますが、ちょうど歴史の中間地点あたりの卒業年次にあたります。あたかも湘南サッカー部の大きな転換期でもあったような気が致します。ドイツからクラマー氏の来日に伴い日本代表のサッカーが変革期を迎えたように、湘南サッカー部に於いては長年岩淵先生のご指導によって積み上げられ、宮原先生により味付けされ、そして先輩の方々から引き継がれた伝統により培われた精神的、技術的そして戦術的なスタイルが、鈴木先生をお迎えし練習の本身も又戦術面も大きく変化し始めました。併せて、先輩後輩の関係もこのあたりから少しゆるやかな上下関係に変わってきたような気が致します。前会長井上さんを中心として企画され

ました、創部90周年行事も「記念誌の発行」、会員宛への「記念文字入り手ぬぐいの配布」、そして「記念パーティーの開催」等恙無く執り行われ一つの節目を無事通過致しました。特に記念パーティーに於いては先輩後輩の垣根を越えた楽しい雰囲気の中大いに盛り上がりましたことはとても良かったと思います。

さて、この節目の時期に皆様には湘南サッカー部OB会の現状を今一度認識して頂き、来るべき100周年に向け、より多くの方々が参画下さるOB会に致したくお力添えを賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

現在総会員数は900名強で、年会費は社会人5,000円・学生3,000円となっております。役員として小泉氏、相羽氏、横山氏、浅倉氏、関氏、武藤氏、須藤氏の皆さんが会の運営に携わって頂いております。年会費を納めて頂いております方は約190名(21%)位ですので、つまり5人に1人の割合の会員によって会の運営予算が賅われております。年一回発行させて頂いております「OB会報」は会費納入の有無に関係なく全会員に郵送させて頂いて

ております。集まります年会費は毎年130～140万円程度となりますが、その用途は平均しますと40%位が現役への支援に、40%位が会報の作成費・郵送費に使われており、残りは記念行事等に向け繰り越しております。現在会員の皆様には、大学の現役の方“、社会人になつてボールを蹴りたいけれど仕事が忙し過ぎて蹴る暇がない方“、卒業以来ボールは一切蹴っていない方“、いろいろ異なった環境におありだと思えます。併せて私達一人一人の現役時代におけるサッカーへの思い入れなどを考えれば人それぞれOB会への参画意識が異なることは当然のことと思われま

す。とは言うものの、名門湘南サッカー部に在籍していた私達としまして、「湘南高校」「サッカー」「仲間」そして「現役支援」こんな共通のコンセプトの下、より多くの皆様が参画頂けるようなOB会になればと、役員一同一層の努力を致していく処存ですので宜しくお願い申し上げます。

尚、皆様にはご承知のことと思えますが、いつでもグラランドに出てボールが蹴れる環境は整えられています。若手チームの「トトカルチョ」をはじめとし、「湘南ペガサスサッカークラブ」として各年代別に5チーム体制が作られており、皆様にはいつでも参加頂けるよう

になっております。それぞれのチームは年代毎のリーグ戦とか各種大会などにも出場し大いにサッカーを楽しんでおります。私達のサッカーには定年制がありません。現在プレーヤーとしての最高齢者川島元信さん(25回卒)79歳を筆頭にしておられます。2、3年先には「湘南ペガサス80」がチームとして発足することも夢ではありません。昔取った杵柄、今一度時間にゆとりが出来ましたら是非皆様もご参加されませんか。

残念ながら現在サッカーをされない皆様にはOB会としての様な「ご懇親の場」をご案内できるか企画していきたいと思っておりますが、皆様のお知恵を拝借させて頂ければ幸いです。尚、湘南高校サッカー部現役情報としまして、現在の1年生にはかなりレベルの高い選手がいますので期待しましょう。

最後に、次の大きな節目であります創部100周年時には国立競技場にて全員集合の上サッカー三昧の1日を過ごし、汗をかいた後の盛大な記念パーティーの開催を企画したいと思っております。

皆皆様のご健勝を念じ申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。

岩淵さんの思い出

昭26年卒 前田 正晶

岩淵さん、私には優しい監督ではなかったが、最も尊敬すべき監督であった。その指導法は今のようにはスポーツが科学ではなかった時代には極めて斬新なものだったし、IT化まで進んだ現在にも十分に通用する、今日のスポーツに最も必要な要素を備えていたものだと確信している。

何と言っても基本技を徹底的に教え込んだことは素晴らしく、これこそ湘南の蹴球の最大の特徴であり、伝統であり、強さであった。

私が30歳を過ぎた頃、昭和33年に慶応大学(サッカー部)を卒業した実弟と久し振りに球を蹴り合ったら、「基礎が崩れていないな。流石は湘南サッカー」と言われたことがあった。「他校はそう見ているか」と思ったのを覚えている。

「球の線に素早く入ってストッピングでもトラッピングでも、必ず体の正面で処理すること」、「パスは常に自分から球に寄っていくこと」などは今でも夢に見るくらい、岩淵さんには厳しく言われ続

けた。

「フライン・プレー等と言うものはない。それは出足が悪かったか、立っていない位置が悪かったかの何れかである」と言った教えなどは、私が個人的に好みではないつつxの川口能活に言っただりしたい。彼は「フライン・プレー」が多すぎる。川口は立ち位置が悪くしかも前に出てくるのが遅いだけなので、素人目にはフライン・プレーに映るが、岩淵さんならきつと「論評の限りあらず。」と切って捨てられたであろう。

話は古いが、当時の高師付属高(現在の筑波大付属高)の村岡さんは常にストライクで捕ってしまうGKで、「何で村岡が立っているところに蹴るのか」と対戦相手を嘆かせた名手だった。

この「球の線に早く入れ」の大原則は何もGKだけの基本ではなく、サッカーの全てに言えることだと思っている。現在の日本代表級の選手たちの癖を見ていれば明らかで、彼らは横から後ろへのパス回しでも、攻め上がる際でも、常に自分の足下に球が入ってくるのを待っている。あれでは体格に優れ(足が長い)欧米諸国の選手たちを相手にした場合に、彼らに絶好のインターセプションの機会を与えるか、または早く寄せられて潰される結果になってしまう。

私はあの欠陥は当時の岡田監督の責任

ではなく、彼らが日本代表に昇ってくる遙か前に「岩淵さんに教えられていなかった結果」であると指摘したい。何度も我が国を破ってきた韓国勢は見事な程この欠陥を知って、素早い寄せと当たりで中盤ではほとんど我が代表チームの攻撃を潰していた。

現在のようにサッカーの形が変わっても、リフティングでは神様のような上手さでできるようなった選手が普通でも、球への寄せが遅ければその技術を発揮する間がないのだと岩淵さんなら言うだろう。

現在の代表の得点力不足はまた別の問題であるが、「周りとの調和ばかりに行き、自分で切り開いてやってやる」という取組精神が欠如している辺りに問題があるのではないか。「ワールド・カップ前」の日韓戦で、朴智星が強引にキープしてからのシュートを見よ。あの様な「自分で切り開いてみせる」との心掛けこそ養うべきではないか。

私は精神論が好きではない。しかし、「技術水準が同じならば、初めて精神力に優れた方が勝つ」と思っているし、岩淵さんにそう叩き込まれた。

私が最も好きな岩淵さんの名言に「勝負に番狂わせなどない。勝った方が強く、弱い方が負けるのである」がある。

プロ野球の野村克也監督は「勝ちに

不思議あり、負けに不思議なし」と言っている。とマスコミが持て囃すが、これは岩淵さんの至言を言い換えたに過ぎない、なんとと言っても岩淵さんの方が先に言っている。

岩淵さんはあまりにも時代が早すぎた大監督だった。

2010 ビルバオ遠征

昭44年卒 坂部 治郎

関さんから今年のビルバオ遠征について一文をと言われ、ついハイと答えたものの、湘南高校について何を書いてよいやはたと困ってしまいました。既に監督の小林先生が遠征についての詳細を述べているので、私としては、ビルバオ雑感みたいなものを書かせてもらいたいと思います。

私と家内の二人が、ビルバオに今春出かけたのは湘南高校の応援にくっついてビルバオ在住のスペインの旧友たちを尋ねるためでした。ビルバオは11年ぶり、私にとって4度目（40年ほど前に2回行っています）の訪問でした。遠征した高校生たちは、まずロンドンに行ったわ

けですが、私たちはまっすぐビルバオに向かいました。

ビルバオは、スペイン北部バスク地方の中心地であり、スペイン3番目の都市ですが、人口は周辺部を合わせても100万に満たないぐらいです。町の中心部を貫流するネルビオン川沿いに世界的な建築家たちが、さまざま近代建築を作り、美しい町並みを誇っています。私が最初訪れた今から40年前のネルビオン川は、公害に汚染された悪臭を放つ、ちよどこそのころの多摩川のような川でした。それから約30年後の今回の訪問時には、すっかり見違えるようにきれいになっていました。多摩川もきれいになったが、ネルビオンもきれいになったと感動したものです。

そして今回その川の両岸には、さまざまなユニークな建築物が並び、町の発展を象徴しているかのようです。

ビルバオとともにバスク地方の豊かさを堪能した1週間でしたが、湘南高校サッカー部OBとしてしたことは、遠征チームをビルバオでの宿泊先に出迎えたことと、彼らの2試合を応援したことぐらいでしょうか。応援をした2試合目は、彼らの宿泊先から近くのところでしたが、試合後そのクラブハウスでちよつとした交歓会をしました。何人かのメンバーが臆することなく地元の人た

ちと楽しくコミュニケーションしている姿には感心させられました。

スペインのバスク地方は、工業、農業が発展し、また観光業も盛んなところで、1週間の駆け足旅行でしたが、その豊かさには感心したものです。特にスポーツ施設には感心いたしました。芝生のサッカーグラウンドは恐らく当たり前なのでしようが、私の友人が住むマンションの近くにある大きなスポーツクラブには、室内競技場、水泳プール、陸上トラック、ジョギングコース、ホッケーグラウンド、サッカーグラウンドがそろっていて、年会費が2万円ぐらいだそうです。

バスク地方には、テニスとスッカシユを合わせたようなペロタという競技があり、このための施設がどんな田舎にもあります。ペロタは言ってみれば日本の相撲のような位置づけで、バスク特有なスポーツですが、そのチャンピオン大会（無論プロ）は、みなが大いに関心を払っています。自転車にも驚かされました。走っている自転車はすべてスポーツ自転車で、ママチャリは存在しません。あるとき2台の自転車が道をふさいで前を走っていたのですが、後につけた自動車はおとなしくついていきます。後で聞いたところ、どこでも自転車優先だとか。ツールドフランスでもスペインチームは強いそうですが、強い理由が良く分かりまし

た。

南アW杯では、スペインが優勝しましたが、考えてみるとテニスは滅法強いですし、ゴルフも強い。団体競技でも個人競技でも強いというのは、スポーツ文化がしっかり根付いているからなのでしょう。

こんなビルバオに湘南高校がサッカー部を2年に1回送るといのは素晴らしいことです。選手たちのこれからの人生にとり、貴重な糧となってくれることと確信いたします。また、湘南でサッカーをやればスペインに行けるぞ、という情報は、今後、湘南サッカー部を強くするのにとてもインパクトがあると思います。そんなわけで、これからも湘南高校のイギリス、スペイン遠征は応援していきたいと思えます。

この湘南高校のマッチメーカーングをしてくださるのは鳥貫さんという50代の方ですが、この方は1970年代にスペインサッカーにあこがれて、スペインに渡った方で、プロを目指して現地でプレーをしたそうですが、もう少しで夢かなわずプロプレーヤーになれなかったそうです。そして今は、スペインとあるいはバスクと日本の橋渡しの仕事をされています。出来れば近い将来、湘南OB十ペガサス連合チームがかの地を訪れ、この鳥貫さんをお願いして現地で試合が

出来たら面白いと思いませんか。
ワインも美味しい、食事もおいしく、且つ風光明媚なスペイン訪問+試合というのはちょっと贅沢な夢のようにも思えますが、決して実現不可能なことでもないような気がします。

まあ、日本でのW杯開催くらいのチャンスはあるのではないのでしょうか。我々が行くだけでなく、スペインのおじさんチームも日本にやって来て交流するとうことが出来れば最高です。

湘南高校の応援からちょっと脱線してしまいました。こんなことも考えさせてくれる遠征であつたと思います。

司法研修所教官を終えて

昭51年卒 大木 孝

51回生の大木孝です。初めて投稿させていただきます。

現役時代は、「フル・バック」の右サイドで、もっぱら守備を担当しておりました。

今の現代サッカーなら呼び名からして変わり、「ウイング・バック」とでも言われて、代表の内田選手のように颯爽と

オーバー・ラップして得点の契機となつていたかもしれないと思うと、ちよつぴり残念な気がします。それほど俊足でもないしスタミナもないので、左サイドの大隅君ともども、「ウイング・バック」は務まらなかつたかもしれませんね。

さて、私は20年ほど前から小田原の事務所で弁護士をしておりますが、縁あつて横浜弁護士会の推薦をいただき、平成19年3月から今年3月までの3年間、埼玉県和光市にある最高裁判所司法研修所で教鞭をとる機会に恵まれました。

司法修習生が教わる弁護科目は、民事弁護と刑事弁護の二種類ありますが、私の担当は刑事弁護でした。

そして3年の間に、7クラスおおよそ500人の司法修習生に講義をしてきましたので、現在は全国各地の教え子が、裁判官・検察官・弁護士・政策担当秘書などとして活躍しています。

ところで、司法研修所の弁護教官は、たいいていは東京三会と呼ばれる東京弁護士会・第一東京弁護士会・第二東京弁護士会の会員から選ばれることが多く、研修所六十数年の歴史の中で、私は東京三会以外だと5人目、横浜弁護士会に絞れば3人目の教官ということになります。

そういう事情もあつて、実は東京以外の弁護士会には、なかなか和光の研修

所情報が流れてこない状況にあります。

実務修習期間に各地の弁護士会に配属される司法修習生が、研修所でどのような講義を受けるのか、二回試験と言われる卒業試験の実態はどうなのかなど、よく分からないまま指導をする東京以外の弁護士にとつては、情報不足に悩まされることになりました。

そこで、せめてどういふ講義をしたか、今時の修習生はどのような若者かなどを横浜弁護士会の会員に知ってもらおうと思ひ、弁護士会のメーリング・リストに大体月に二本くらいの割合で定期的にエッセイを投稿して来ました。

名付けて「和光だより」。(そのまんまです)内容は、私のオリジナルの図表などを紹介する授業風景、修習生との飲み屋でのやりとり、各地に出張講義に行つたときの紀行文もどきなど盛りだくさんで、法律の堅苦しいお話はごく一部です。

このたび、3年分のこのエッセイを見て、面白いから出版しようと言つていただける奇特な出版社(現代人文社)があり、実際この10月に「和光だより・刑事弁護教官奮闘記」という表題で無事出版されました。

現代人文社は、法律関係の書籍を数多く手がけている会社で、我々の業界では有名な会社ですが、私のエッセイ原稿のようなものはまだ手がけたことがなく、

半分は賭けのような気持ちで実現したもののなのでしょう。

しかし、幸いにも売れ行きはそこそこ好調で、修習生やロースクール生が中心ですが、卒業した私の教え子たちもたくさん購入してくれているようだし、法律と無関係の一般の方々にも少しずつ広まって行く気配です。

この好調の理由の一つに、41回の相羽先輩や48回の関先輩にご尽力いただき、毎日新聞神奈川版や神奈川新聞で大きく取り上げていただけたこと、またOBあてメールで紹介していただいたこと、さらには口コミでご推奨していただいたことなど、一介の弁護士だけではなかなか出来ない宣伝活動をしていただいたことが挙げられます。有り難いことです。

さらに、日本弁護士連合会が発行し全国の会員2万7000人くらいに配布する「自由と正義」という機関誌の12月号に、この本のブック・レビューを掲載していただけることになっており、今後より多くの方々目に触れることになりそうです。

もしも興味がおありの方々は、本屋で手にとって開いてみてください。(もちろんインターネットでも購入できるようです。)

※編集部注… 大木孝さんの著作は「和

光だより・刑事弁護士教官奮闘記」(現代人文社、1900円)で、10月10日に発行されました。

50歳になって

サッカー復帰

昭51年卒 水野 潔

高校を卒業して大学に進んだ時、同好会のようなものしかなかったのですが、あまりにも高校時代とはイメージが違ったことから、大学ではサッカーを続けませんでした。しばらくは、たまに湘南の練習に顔を出していたと思いますが、だんだんとサッカーから遠ざかることとなってしまいました。

それでも、もちろん日本代表の試合とかは見えていましたし、不思議なもので、何歳になっても時々自分がピッチに立ってプレーしている夢は見ていました。

同期の石郷岡に誘われ、試合の情報を送ってもらったりしたこともありましたが、一度離れてしまうと、戻ることはなかなか難しいことでした。

そうこうしているうちに、気がつくとも50歳を超える年齢に達していました。そんな時に、大きな転機がやってきたので

す。

私は、小学校5年生の時に、小学校の名前がついた地域のチームでサッカーを始めました。そのチームが今日まで存続しているのですが、息子が小学校に入った時から、チームに入ることを勧めていました。でも、あまり興味がないようで、親の気持ち通りにはいきませんでした。それが、2年生の夏前になって、友達が入るからと、チームに入る決心をしたのでした。

当時は土曜日に仕事が入っていたので、初回から見に行くわけにはいきませんでした。前回目にグラウンドに足を運び息子がサッカーをする姿を見にいった時のことです。なんと、担当のコーチは、湘南の2年先輩の元松さんだったのです。正直運命を感じました。そして挨拶をしにいった私に、元松さんは「いっしょにやりませんか?」と言ってくださったのです。

「いまさら自分がサッカー?」と思いました。と同時に「これが最後のチャンスかな?」とも思いました。幸い、家族の暖かい理解と応援もあって、とりあえずは自分がかつて育ててもらったチームのコーチ補佐をやらせてもらうことになり、そして昨年の春からは、「湘南ベガサスニアA(現50)」に参加させていただけることになりました。チームの皆

さんにも暖かく迎えていただきました。

なにか、やはり自分は湘南サッカー部の掌の中にいたのだなあ、と思いました。実際にピッチに立っている時間は短かったですが、あの夢の中で見ていた光景の中にまさに自分がいるという、ちよつと信じられないような気持ちでした。

もちろん、30年のギャップは大きく、身体はなかなか思うように動いてはくれません。現役時代だったら楽にカットできていたはずのボールも間に合わなかったり、特に浮き玉はタイミングをとるのが難しいです。

そんな状態であったことから、今年度は、「湘南ベガサスニア55」に移り、少し長い時間使っていただけ、鍛えていただいています。チームの皆さんに迷惑をかけないよう努力しているつもりですが、なかなか思い通りにはいきません。

でも、この年になってまがりなりにもピッチに立ってサッカーをできる幸せをかみしめつつ、苦しいなりにサッカーを楽しんでいます。ミスも多いですが、たまにうまくインターセプトできた時や、うまくパスを通せた時の快感はことばでは言い表すことができません。そして、このまま、健康に留意していけば、少なくともあと20年はサッカーをできるかな、と気持ちを高揚させています。皆さんの中にも、サッカーから遠ざ

かっているけれども、少しでも「もう一度サッカーをやってみよう」と心の片隅

で思っている方、今でもピッチに立っている夢を見ていらっしゃる方、私でもなんとかやっています。是非思い切ってもう一度ピッチに立ってみませんか?

ベガサス70活動報告

昭27年卒 山本 修

湘南ベガサス70チームは、昨年に引き続き以下の行事に参加した。

今年も、怪我や病気の故障者が続いて、人数不足となるものが多く、遠征のつど県内各チームから数名の応援を得て参加した。新メンバー補充が望まれる。

一・70才以上大会の遠征

下記の4大会に遠征し、5勝6分0敗の好成績であった。参加チームの多くが県選抜や地域連合で構成されている中で、単独クラブの湘南ベガサス70は珍しい存在である。

全国シニア大会 藤枝 5/28~30
東日本ロイヤルエイジ 那須 6/24・25
刈谷スーパーエイジ 刈谷 9/18・19
福井ロイヤルエイジ 三国町 9/26・27

二. 神奈川シニアリーグ

湘南ベガサス・神奈川東部連合・西部連合の3チームが参加、3回総当たりのシニアリーグが、5月～10月、平塚馬入人工芝グラウンドで開催され、湘南ベガサスが4勝2分で優勝した。

三. その他の70才以上行事

70チームとして、以下の行事に参加。

Gリーグ埼玉 深谷 4/4

Gリーグ千葉 市原 4/26

関東シニア大会 熊谷 10/24

F S K 交流会 仙川 11/23

四. 県協会シニア交流会

県協会主催のシニア交流会は、原則70才以上、68才以上許容として、平塚馬入人工芝グラウンドで、火曜か水曜の月3回、年間37回が計画されている。

60雀リーグ参加8チームから、湘南ベガサスは単独チーム編成、他の7チームからの参加者は、小田原・茅ヶ崎・平塚連合、横浜・Y K・神奈川連合の連合2チームを編成して対戦した。

4/21清水、5/12東大L B、7/28清水、11/16埼玉、11/25東京12/7東大L Bが、ビジターとして交流会に参加した。

五. その他の高令者対象の行事

高令者対象の行事がいろいろな年令制限で開催され、湘南ベガサスは以下の行事に参加した。

第7回清水大会 68才以上 3/20・21
清水交流会 清水 68才以上 10/7
シニアフェスタ善行 69才以上 11/20

ベガサス60
サッカーへの想い

ベガサス60代表
昭38年卒 長谷川十九治

「長谷川、君はまだサッカーやっているんだって？良く走れるね、自分は走らなるとんでもない、ゴルフでカートに乗りながら18ホールラウンドするのがやとだよ。もし自分がやったら心臓麻痺で倒れるね。」これは最近友人達に良く言われる言葉である。もう昔と違うのだから怪我しないうちにいい加減で止めるよということだろう。40年連れ添っている女房は、私が四十雀の試合で鼻骨骨折した20年ほど前にもうこれつきりサッカーは止めてくれと懇願したがそれでも私が止めなかったのを機に何も言わなくなった。大腸がんの手術で約1年、狭心症の気があるから二ト口を離さないように言われて半年ほど休んだが結局続いている。監督の宮杉、フォワードエースの牧村、バックの要の伊通、阿部も、胃、前立腺、などの癌手術を克服して復帰し

てきている。家族が応援に来ることは殆どない。おそらくもう年なのだから止めてくれと思っているに違いない。

何故メンバーはサッカーに熱い想いを抱いているのか？それはサッカーがそれだけ素晴らしい競技スポーツだからだ。単に体力維持、健康増進のためならそれなりに楽しめるゴルフやテニスをやれば良い。現に私もウィークデーは近所のテニス倶楽部に入会しテニスを楽しみ会員との親睦も深めているし、ゴルフも月1回の月例競技会に参加している。やっぱりサッカーは体と体がぶつかる格闘技としてイエローカード、レッドカードをもらうほど闘争心が燃えるし、メンバー11人とベンチのサブが一体となって勝利に拘る極めて情熱的な競技でありそこが魅力なのだ。相手に競り勝ちヘディングシュートをした時、1対1をフェイントで抜き去りドリブルシュートを放った時、相手のPKをゴールキーパー坂井が防いだ時、まさに興奮の一瞬だ。時には怪我もするし膝や足首に古傷を持っている者も多いがそこは50年もの経験者、上手に付き合いながら続けている。

湘南ベガサス60の目標は、全国シニア(60歳の部)の神奈川代表になることと神奈川シニアリーグ60で優勝すること。全国シニア神奈川予選は全5チームでのリーグ戦、神奈川シニアリーグ60は全8

チーム215名の登録選手が前期後期14試合を戦っている。今年の当チーム登録選手は30人。60歳なりたてのメンバーも増強し今年こそと意気込んだが残念ながら両リーグ戦共に3位と3年連続で優勝を逃してしまった。原因は引き分けが多いこと。敗戦は一つしかなく結局6勝1敗10引き分けと半数以上が引き分け。現在のリーグ戦の仕組みでは勝利は勝ち点3だが引き分けは勝ち点1。3引き分けは勝ち点では1勝2敗と同じで年間通じて1敗しかしていないのに勝ち点が取れないという結果は何となく(負けていないのに何故か?)と悔しい想いに終わった。しかしながら本年度からねんりんびつくの参加が予選方式となりこれには見事勝利し神奈川代表として石川県に乗り込んだ。横浜、川崎、相模原(いわゆる政令指定都市)在住以外のメンバーしか参加できなかったが岩手代表には2・2、徳島代表には3・0、富山代表には3・0でブロンズ優勝し金メダルを頂戴した。

活動は前述が中心だが勝ち負けに拘らない親善試合にも参加している。関東各地の県サッカー協会シニア委員会がGリーグと称し群馬、栃木、茨城、千葉で60歳チームの親善試合を企画してくれている。Gリーグは爺ちゃんを模したもので、関東はことのほか盛んで各地で往年の名

選手、時には日本代表選手も出場してくる。清水スーパースタリ大会には東京、メキシコオリンピックの名ウイング杉山選手が毎年出場している。顔なじみの選手と昔話にふけるのも楽しいものだ。

サッカーがしたい、レギュラーに選ばれたい、先発メンバーに選ばれたいという想いは現役時代と一緒に、監督宮村が起用選手を発表する試合20分前は緊張の瞬間。若いころは技術がものをいうが年を取ると走力が決め手。どうしても足の速い者が有利となる。この年でも100m15秒を切って走る選手もいる。でも宮村は控えの選手でも必ずしただけの出場機会を作ってくれる温情監督、このあたりは勝利を目指すとはいえ60歳を超えたチームワークなのか？

年はとったとはいえ学生時代の体育会感覚、サッカー第一で取り組んでいる。決してサッカーを通じた親睦団体ではない。ただ一つだけ勝てないものがある。10月は孫の運動会優先で出席率が悪くなるので頭が痛い。

ペガサスシニア50 —怪我との戦いに

明け暮れて—

昭和49年卒 元松 経男

久々に監督をお引き受けした私の平成22年度シーズンは、キーパー探しからはじまりました。昨年の主力メンバーから6名がシニア55へ移籍され、ジュニアから田代さんが加わり、総勢20名でシーズン入りと思われた矢先に、キーパー野口さんの転勤を知らされました。そこから関さんを中心に急遽キーパー探しです。野口さんには暫くの間広島からの参戦をお願いし、ペガサス60の坪井先輩とジュニアの森君（名古屋在住）に二重登録を、55の桜井さんには50への再移籍を、そして、超多忙な長谷川さんにも新加入をお願いし、何とか24名の登録でシーズン入りとなりました。全国予選には他の3名も登録し、総勢27名の所帯です。

昨シーズンは、神奈川シニアリーグ五十雀一部と協会主催の全国予選でも準優勝。近年にない好成績でしたので、大幅なメンバーの入れ替えとはいいながらも、昨年以上の成績が目標となりました。そして、私が挙げた今シーズンのテーマは「1年間を全員サッカーで楽しみ、

関東シニアに向けて益々技術力を磨き、攻撃的サッカーにチャレンジする！」とでした。

結果は、シニアリーグで2年連続々々の準優勝でした。7勝3敗1分、得点20失点10、勝ち点22は昨年とは違い、早い時期からの上位争いの結果で、安定した負けないサッカーが出来た結果かと思えます。とはいえ、年初から骨折やじん帯損傷・ねんざとけが人が続出し、公式戦の平均参加者数は13人強という状況でした。交代選手が少ない状況での試合は、故障気味でも調子が悪くても交代できず、故障を悪化させ、治るのが遅れる原因となります。

そんなわけで、今年の監督の大事な仕事は、ゲーム前にまずメンバーの健康確認をすることであり、連絡係の関さんは試合直前まで、メンバーの出欠確認を続けることでした。

そんな状況の中でも、今年のチームはいつも熱く試合に臨んでいました。出席率の高い吉田（ゲームキャプテン）、二見、関、森のセンターラインを軸に、3バックを主体とし中盤を厚くし、前からのプレスと速いパス回しで、高いボールポゼッションで優位にゲームを進めることを、全員が意識していました。また、今年の特徴は、石川の10得点、二見の5得点を始め、10名が得点していることです。ア

シストも含めると、ポジッションに関係なく、どこからでも点に絡める全員サッカーが出来ていました。攻撃的で楽しいサッカーが出来るとチームワークが整い、人数が少ない分、全員がゲームに集中し、いつも勝つためのゲームプランを語らいつつながら、これまでにない連帯感が生まれているような気がします。

全国予選（0-50神奈川リーグ）は残すところ兄弟対決のみですが、こちらは勝ち切れずに、2勝1敗4分、得点9失点6、勝ち点10で、9チーム中4位に甘んじています。人数が少ないため少しバテ気味ではありますが、裏を返せば、負けないサッカーが出来ているとも言えますので、年末から始まる県議長杯トーナメントに向けての心の切り替えも、始めていこうと考えています。これから始める県議長杯は、攻撃的な全員サッカーで楽しく盛り上がり、良い結果を目指したいと思えます。

また、昨年の好成績が認められ、新年2月には神奈川県が会場となる関東シニア選手権大会に、県代表として出場できることとなりました。久々の大舞台ですが、湘南サッカーがさらに充実して、楽しめる攻撃サッカーとなって結果を出せるように、日々イメージセッションを膨らませて、臨みたいと思えます。

こんな五十雀チームです。暫くサッカーから遠ざかっている皆さん、一緒に攻撃的な楽しいサッカーを楽しみませんか。

湘南ペガサス55報告

監督 黄瀬 直彦

お世話様です。

2010年ペガサス55について、ご報告致します。

主な試合は、神奈川シニアリーグ・全国シニア県予選・神奈川県議長杯になります。

現在まで行われた試合の結果をお知らせ致します。

☆シニアリーグ戦結果

- ①対茅ヶ崎赤羽根 1×0 ● 4月3日
- ②対川崎シニア 1×0 ● 4月10日
- ③対グランパ 0×2 ○ 5月8日
- ③対綾瀬 0×0 △ 6月12日
- ⑤多摩クラブ 0×1 ○ 6月26日
- ⑥対茅ヶ崎ウエスト 2×0 ● 7月3日
- ⑦対浅野・藤沢 3×1 ● 7月24日
- ⑧対足柄上シニア 4×3 ● 9月11日

- ⑨対FC中沢 1×0 ● 9月18日
 - ⑩対栄光 3×1 ● 9月25日
 - ⑪対横浜 0×0 △ 11月6日
 - ⑫対神奈川県庁 0×1 ○ 11月13日
- 3勝7敗2分 残り1試合 現時点11位

☆全国シニア予選結果

- ①対多摩 3×0 ● 5月15日
 - ②対西湘 3×0 ● 6月5日
 - ③対赤羽根 3×0 ● 8月28日
 - ④対ウイット 2×0 ● 10月2日
 - ⑤対横須賀 5×0 ● 10月9日
 - ⑥対横浜シニア 4×0 ● 10月16日
- 0勝6敗0分 残り2試合

以上のように、勝星が少ない結果となつていきます。また、得点力も寂しい現状です。

リーグ戦は、7・9月の暑い時期に黒星が多くなつていきます。

シニア予選は、中々モチベーションが揚がらずこのような結果になつていきます。

ペガサス55は、名前のとおり55歳以上が主体のチームです。

他チームは、50歳前半のチーム構成が多く、活動量が豊富です。

我々も気持ちは、いつも若く対応しているつもりですが、身体は正直で、後半になると、足が思うように動かないよう

です。

いつも勝点を挙げようと試合に臨んでいます。中々旨く行きません。

ペガサス55は、試合に来た選手は全員参加することがモットーで、その戦力で勝点を取ることが狙っています。

これからも、皆でサッカーを愛する情熱を持ち続けて、怪我なく末長くプレーをして行きたいと思えます。

「勝てば選手の功績、 負ければ監督の責任」

昭和39年卒 田中 聡

湘南ペガサス・ジュニア(40代)の監督になり、今年は2年目のシーズンを迎えました。昨年は人生初のサッカー監督就任で、訳もわからずシーズンに突入し、「湘南サッカー」とはかけ離れた派手な

打ち合いとなり、3部リーグで13チーム中ちようど真ん中の7位でした。しかし、昨年後半から藤塚君(54回)を中心に、うやく守備陣が固まり、県議長杯トーナメントでは久しぶりに今年1月まで勝ち抜くことができました。

そして今年、岡田ジャパンに先駆けて、2年目ですっかりチームの攻守の要

になった田中敦君(62回)をアンカーの位置に固定するシステムで2部昇格を目指しました。昨年とはうって変わって守備は安定し、最終戦の1試合前まで昇格の可能性がありました。しかし、開幕戦・首位秦野戦・そしてその最終戦のひとつ前の大事な試合を監督の不手際で落とし、4勝3敗5分けの6位でシーズンを終えました。

湘南ペガサスサッカークラブ会則において目的の第一に掲げられている「サッカーを通じて会員相互の親睦をはかり、心身の健康を増進する」に従って、参加者全員出場を大前提にしながら、名門湘南ペガサスの名に恥じない成績を目指しました。この2年間、ほとんどすべての試合で対戦相手を上回る大勢の方々にご参加いただきながら、誠に残念ながら何の結果も出せませんでした。表題のように、責任はすべてチームをまとめきれなかった私にあります。

現在の40代のチームは、会員29名、うちOBは14名、平均年齢は今年4月1日の時点で、47.6歳でした。名門湘南ペガサスの最近の低迷の第一の原因は、やはり高齢化にあると思います。しかし、数年前に比べてOBの人数が増え、今年ほとんど試合で参加者の過半数をOBが占めるようになりまし

柱である水上君(56回)、代表に田中敦君(62回)が就任し、幹事が若返ります。40代前半のOB諸氏のご参加が得られれば、湘南は再び神奈川シニアサッカーリーグの盟主に再び咲けるものと確信致しております。何卒、よろしくご高配のほどお願い申し上げます。

6年間を振り返って

トトカルチョ湘南
平17年卒 橋本 論

湘南高校サッカー部OB会報に自分が投稿するのもこれで3度目になりました。高校時代、先輩方の背中がとても大きく感じていたのに、自分が大学1年生からこのトトカルチョ湘南と言うチームに参加するようになって、6年が経ちます。一般的に良く言われることですが、本当に時間が経つのは歳を追うごとに早く感じます。これを実感する中で、自分の背中が後輩達に大きく見えているでしょうか?多少心配なところですが、

さて、まずトトカルチョ湘南の近況ですが、結果から申しますと昨年度もまた先輩方、現役生達に自信を持って報告できる内容には至りませんでした。なかなか

か良い結果が出せず、湘南サッカー部OBとして恥ずかしい限りです。3年前トトカルチョは神奈川県2部リーグから3部リーグに降格し、現在は2部に返り咲くために日々活動しています。2年連続で昇格トーナメントに進んでいます。年間のリーグ戦とは違い、トーナメント戦の難しさを痛感する結果が続いています。本年度は新規メンバーが2名加入し、多少若返りをしましたが、全体的にはメンバーが減り、試合で人数が足りないこともあり、厳しい試合が続いています。それでも、来年度のOB会報で良い結果を報告できるように最後まで諦めずにサッカーを楽しみたいと思います。現在、湘南高校を卒業して大学で活躍をされている活気あるOBが多にいると思います。是非、トトカルチョ湘南に入っ

て一緒にサッカーをしたいと思っ

ています。遠慮せず、積極的に参加して欲しいと思います。この場を借りて、少し勧誘させて頂きます。話は変わりますが、先ほどから述べているように、自分は大学1年生から現在の大学院2年の約6年間トトカルチョ湘南でサッカーをしてきました。その中で約4年間代表としてチームを運営してきました。しかし、来年から自分も1人の社会人として学業から卒業します。トトカルチョ湘南は学生が責任を持ってチー

ムの運営を行う事になっていきますので、来年は新しい人が運営を行うでしょう。僕はある意味で引退です。(もちろんサッカーは続けますが)肩の荷が下りるかな、と感じると共に、責任ある立場から下りてしまう事に対して切なさもあります。

トトカルチョ湘南という社会人団体の代表をすると、練習場所の時間と場所の確保、各チーム代表と県リーグの試合日程調整、県の会議に出席と、自分で動かないとチームが回りません。やはり、初めは正直面倒です。しかし、4年近くやっていると、県協会の中でも多少顔が利くようになります。様々なチームから練習試合に声をかけられることもあれば、練習場所も提供してもらうこともあります。この様に、人との繋がりが広まっています。さらに、この会報に3回も投稿し、湘南高校OBの大先輩の方々との繋がりを少しでも多く持つことができましたと思っ

ています。これら繋がりは、代表をしなければ築くことができません。一人では生きていけません。助けが必要なときに、少しでも多くの相談できる相手がいると、良い方向に物事を進めることができると思っ

ています。代表を務めることでこの繋がりは、この様な面で非常に大切な繋がりです。代表を務めることでできた繋がりが、そこまで密な繋がりであるとは言い切れませんが、自分は、今まで築くことができなかった繋がりを広く築くことができましたことに非常に喜びを感じています。次に代表をする人も、人との繋がりの広まりを少しでも楽しんでもらえれば良いと思います。

最後に、6年間トトカルチョ湘南でサッカーをし、4年間責任のある立場で動くことができたのも、結局は自分について来てくれるチームメイトがいたからに他なりません。先輩方、後輩達に感謝したいと思っ

現役報告

主将 岩村 貫吾

この度、主将となりました岩村貫吾です。日頃より、OBの皆様からの心強いお力添えと応援により、日々充実した活動を送ることができとても幸せに感じています。OBの皆様によつて支えられている活動を1秒たりとも無駄にしないよう、日々精進していきたいと思っ

3年生が引退し、新チームが始動してから約3ヶ月が経ちました。新チームの攻撃は3年生が引退する前から出場していた選手が多く、相手を崩して得点をすることができません。得点ができずに終わった試合はほとんどありません。しかし守備は失点が多く、押し込んでいる試合でも勝てないときがあります。

これからは、守備では「声を掛け合い、チームとして全員が同じ意図を持つて積極的にボールを奪う」「粘り強く、体を張ってゴールを守る」などを意識して失点を減らしていけるようにし、また攻撃では「ボールを失わない」ことを常に年頭に置き、さらに磨きをかけていきたいと思っております。

まだまだ課題はたくさんありますが、小林先生のご指導の元、チーム全員で考え、話し合って課題を一つひとつ克服し、少しずつレベルアップしていきたいと思っております。

すでに新人戦は始まっていますが、これから始まるどの大会でもOBの皆様への期待に応えられるような、良い結果を残していけるよう部員一同努力して参ります。神奈川県代表を勝ち取り、全国大会で上位進出することを目指しています。これからも応援よろしくお願致します。

ご挨拶

監督 小林周太郎

日頃よりOBの皆様にはご支援・ご協力いただきまして大変ありがとうございます。

また、公式戦・練習試合と会場に足を運んでいただきまして感謝いたします。今年度は、上位に進出させることができずに3年生を引退させることになってしまいました。21名の3年生全員が選手権予選までチームに残り、後輩と切磋琢磨したことは、湘南高校に赴任してから初めての経験となり、これからのチーム作りには大きな好影響となってくれることを期待しているところです。新チームは強いチームに抵抗できるが、弱いチームにも合わせてしまうところがあり、これから春に向けて逞しさを身につけていかなければと考えています。部員は1・2年生で選手51名、マネージャー2名の53名となっております。

入部希望者が増えていることは湘南高校サッカー部に魅力を感じる中学生が多く、いるということなので、この流れを維持できたならポジション争いの激しいチー

ムとなり、力が上がると考えています。是非、お力添えいただけたいと思います。さて、今年度は二年に一度の海外遠征ということで、スペインのビルバオとイングランドのロンドンでサッカーと文化を体験してきました。貴重な経験であったと思います。

このような遠征がおこなえるのも、OBの皆様のお力添えがあつてのことです。今回より学校の国際交流事業の一環としての扱いとはなりましたが、遠征の体制については今までどおりとなっておりますので、前回までのノウハウをいかした遠征となっております。今後については検討すべき課題もあると考えています。大きな刺激を受けられる遠征をバックアップいただきまして感謝申し上げます。

■編集部注…選手権の二次予選に残れなかつたため、新人戦の湘南地区予選に出場。予選リーグを1勝1分で突破し、新人戦中央大会代表決定戦も勝利しました。これにより、関東大会予選、新人戦中央大会にも出場できることとなりました。

現役の現状と課題

2010年、夏のOB会の際に、小林先生がOB会の幹事に現役の現状についてお話されました。その要旨をまとめました。

○部員の増加

・2010年春の新人部員は39名。現在、37名が残っている。光陵、翠嵐などのトップ校でサッカーの盛んな学校が1年生部員10名前後の中、大きく増加した。原因は、湘南が文武両道を強く打ち出していること。川井校長はことあるごとにメディアでもこの方針を発言し、学校でも、よく勉強し、よくスポーツをやることを奨励している。校長が、サッカー部だけでなく多くの公式戦を見に来ている。

部員の増加とともに、質も向上している。今年は、県選抜が2名入部。3年が17名全部残ったにもかかわらず、7月の選手権予選には、1年生4名が先発出場した。このほかにも有望選手が多く、小林先生によれば、県立でのサッカートツ

プ学校の厚木北、座間に匹敵する人材が入部しているという。(座間は選手権代表校)

※その後、11月にお話を伺った際には、2011年も同様に期待できる選手が入る見込み。

○ 指導体制

・現在1、2年で60名弱。部員の増加にともない、指導は3クラスに分ける。Aチームは、小林先生、Bチーム、CチームはOBコーチがみる。OBコーチは、現在、篠塚さん(82回)と中山さん(84回)の2名。このほか、GKは、GK経験者でないとの確な指導が難しいので専門のコーチが必要という。小林先生の前任校のOBにお願いしている。

・コーチへの謝礼は、OBコーチについては月額5千円。GKコーチに謝礼を支払う。

・このほか、鈴木中先生、三村格一さん(元日本代表・元東邦チタニウム監督)が、時間のあるときに指導している。お二人は、基礎技術の教育が中心である。Aチームの選手でも、思わぬところで、基礎ができていない場合もあり、複数の目でチェックすることでレベルがアップする。

・一般的には、トップチームのコーチを、生徒負担でつけると、補欠選手側からの

不満がでる。Bチーム以下のコーチを全体で負担する場合は、不満がでにくい。

○ スペイン遠征

・来年も同様の状況であると、2学年で70名の体制となる。この人数で、試合を組むと、最低でも3チーム体制になる。グラウンド、相手の確保など、なかなか困難な課題がでてくる。一方、いま入学してくる生徒は、スペイン遠征に対する期待が大きい。これがあるので湘南高校を志望したという場合も多いと聞く。次回を簡単にやめるといふわけにもいれない。また、関東大会の予選が直後にあり、この勝負だけを考えて、国内で練習した方がよいのかもしれない。

・スペインに遠征したからといって、サッカーが急にうまくなるはずもない。むしろ、早期からの国際化など、全人格的な教育効果が大きい。例えば、イギリスでの経験を踏まえて、帰国してからの英語への取り組み方が変わるなど、生徒の意識の変化があるようだ。

・生徒の個人負担は、30万円を超える。一方、来年からは高校の学費が無料となる。この分を積み立てれば、ちょうど賄える金額ではある。

○ 金銭面からみた、部の運営

・学校からの予算は、年間15万〜18万円。

全額、ボールの購入。1ヶあたり5千円として、30ヶ〜45ヶ。2人に1ヶとしても、常時30ヶは必要。人数が多いとボールの消耗が早い。

・個人負担は、父母会費として、年間1万2千円を徴収。60名として72万の規模。試合参加、ティーピング、飲料などの全体の運営はこれで賄う。このほか、合宿などの参加費用は、参加者の自己負担。OB会からの補助。40万〜50万。OBコーチへの謝礼、OBの合宿参加補助。ほか、

経常費で賄えない支出にあてるとして、OB会からのスペイン遠征補助。1年間で、約30万円を確保。2年積み立てて、約60万円を補助。主に、OBコーチの旅費にあてる。

・ペガサスからのボール寄付。

年間で見ると、生徒負担と学校予算を合計して、80万〜90万円規模。OB会からは70万〜75万程度を寄付しています。なお、スペイン遠征を実施するようになってから、遠征に参加した生徒はOB会に対する意識が大きく変わってきたようです。OB会が主催となって遠征が実施できたこと、付き添いや費用面でも援助していることなど、OB会の存在を実感できたことが大きいと思われます。OB会

の最大の課題とも思われる「継続性」という意味では、スペイン遠征は大きな効果をおぼえているようです。(文責・昭48年卒関)

編集後記

昭48年卒 関 佳史

90周年記念事業では、会員の皆さまにご協力をいただきありがとうございます。いたらぬところも多々ありましたが、何とかパーティーの実施、記念誌の発行を行うことができました。

記念誌につきましては、2点お詫びがあります。まず、1点は、いくつかの原稿で誤植が多かったことです。十分に注意はしておりましたが、データ入稿でないものについて、パソコンでの自動読み取りを使用しましたところ、校正ミスができました。もう1点は、26回の前田先輩の原稿につきまして、ご本人の最終確認をとらずに掲載してしまったことです。こちらは、今回の会報、改めて掲載をお願いしました。

改めてお詫び申し上げます。申し訳ありませんでした。

住所録の発行を企画に入れてありますが、ハガキの返りが200通弱と悪かったため、いったん作業を保留にしております。この返りでは、個人情報扱いなどが判断できません。なお、会報の郵送は概ねできていますので、ご自宅、またはご実家には会報がついているものと思われま。また、湘友会の名簿は、2011年6月に発行予定ですので、そちらの様子をみます。湘友会の名簿をもとにして、より正確なものにすることが出来るかもしれません。

58回の栗原勇さんのご息子が2年生で活躍しています。小柄ながらスピードがあるFWで、新チームの中心選手となっています。4-2-3-1のフォーメーションで、CFまたはサイドのMF(昔であればウイング)を任せられ、得点にからみ、チャンスメイクをしています。

34回の番場定孝さんが今秋の叙勲で旭日中綬章を受賞されました。長く県議会議員を努められ、また、県議会議長としてのご活躍が認められました。OB会の運営にもご尽力を頂き現在は特別養護老人ホーム鶴生園の理事長をされています。

また、前号の巻頭文をお願いしました48回の鈴木啓介さん、この11月に紫綬褒章を受賞されました。50台半ばの若さでの受賞は珍しく、フンボルト賞、日本化

学会賞に続く快挙です。2010年は、根岸英一さんのノーベル賞、大野和土さんの文化功労者と湘南OBの活躍が目立ちます。おめでとうございます。

湘南高校の90周年記念事業は、資料展示館を新設するという事で進んでいます。この委員会に、相羽さんと関が委員として参加することになりました。天野武一さんのご息で、湘友会の前会長の天野武和さんからお誘いを受け、できる範囲で協力するということで参加しています。各運動部から、何人かお手伝いが出

関はこの委員会で映像部門を承っております。勤務のテレビ神奈川でのノウハウを生かすということです。11月に行われた根岸英一さんの母校での講演会をテレビ神奈川で収録して特別番組として、2011年の正月に放送する予定です。私事で恐縮ですが、是非、ご覧ください。また、この映像を資料館で使うべく準備をしています。

筑波大付属定期戦

期日…2011年3月20日(日)予定
場所…筑波大高校付属グラウンド
なお、詳細はHPをご覧ください。
※今回、春のハガキ連絡は休止します。

〈出版物のご案内〉

56回生 水戸将史君(参議院議員)が本を出しました。『等身大のニッポン』、希望と楽観主義を携えてというタイトルです。12年間の神奈川県議会議員、4年目に入った参議院議員の活動から、日本を考える水戸氏の「今の素直な思い」が記されています。・日本を見つめる・教育は国の根源なり・お役所との付き合い方・地域主権と税源の配分・若者の日本観を問う…等、多岐にわたり「思い」が分りやすく語られています。少しでも良い社会を作りたいという、希望を持って政治に真摯に取り組む水戸氏の姿が感じられます。

(時事通信出版局 1575円)

へメモへ

